

▲詩

材

龜町

岡田 菊菫

十九日の夜、博言博士イーストレーキの前を
通つて見ると、青白い洋燈の光が赤い窓掛の
隙間から漏れて、少しく曇つた月は枯木の上
に、異郷の人の死を守つて居た、こればかり
でも一寸した短簾位に成りさうなものだが

評 好詩想